

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 3 月 7 日

【評価実施概要】

事業所番号	3671400236
法人名	有限会社 おりの
事業所名	グループホーム ぽかぽか
所在地	徳島県海部郡海陽町久保字板取12-1 (電話) 0884-74-6201

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年 3月 3日

【情報提供票より】(平成20年 1月 21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 7 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	17 人 常勤 6人, 非常勤 11人, 常勤換算 Aユニット 7.5人, Bユニット 7.6人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000、40,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,200 円

(4) 利用者の概要(1月21日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名
要介護3	5 名	要介護4	3 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 89 歳	最低 81 歳	最高 99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	折野胃腸科内科
---------	---------

徳島県 グループホームぽかぽか 1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

施設のすぐ前は水辺公園になっており、町なかでありながら静かで恵まれた環境にある。アットホームで温もりのある生活を支援しようという施設長、管理者の意気込みが全職員にも伝わっており、利用者への対応にも充分感じられた。地域密着型サービスとしての役割をよく認識しており、利用者は地域社会の一員ととらえ、できるだけ外出の機会を作り、地域との交流を支援していた。また、協力医療機関の医師がほとんど毎日訪れ、利用者一人ひとりの体調を確認するなど、健康で安定した生活の支援がなされていた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 「利用者や家族の意向に基づく介護計画の作成」、「蓄積された情報を活用し、さらなる個別的なケアの実践」について、利用者の思いや情報を日常の観察のなかで把握したり、家族に聞いたりすることで把握し、ケア会議を通して計画に反映されており、個別的なケアが実践されていた。「計画的・継続的な研修の受講」について、管理者は、研修の機会を積極的に情報収集し、職員にも受講を勧めている。「地域の理解を深めるためのホーム便り等の作成」については、利用者のプライバシー等に配慮し、発刊されていない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 施設長、管理者、職員は自己評価の意義をよく理解し、日頃の話し合いのなかで自己評価を活用し、サービスの向上に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6) 運営推進会議は3ヶ月に1回開催され、利用者の状況や行事など、ホームでの取り組みの報告、家族や出席者の意見を聞いている。利用者、家族、地域住民、町担当職員、地域包括支援センター職員が参加し、家族、地域、行政との交流の場となり、意見交換することによりケアのサービス向上に役立てる取り組みがなされている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8) 玄関に苦情・相談箱を設けているほか、家族会、ホームの行事への参加、訪問時等機会のある度に意見、苦情、不安等を聞く機会を作っている。その内容を管理者、職員が検討し、運営に反映する取り組みがなされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近所の住民から度々農作物の差し入れがあり来訪者も多い。買い物、散歩は、日常的に支援されており、実家が近い利用者が多いためか、家族や親戚が毎日来訪する人もあり、地域住民としてすっかり溶け込んでいる。併設の複合施設のデイサービスの利用者や高齢者住宅の入居者との交流もでき、地域との連携は日常的に密に行えている。

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者はあくまでも地域社会の一員であるとの認識のもと、「温もりとやすらぎのあるアットホームな生活」という独自の理念を作り、管理者、職員が利用者の日常生活を支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は常に運営理念を職員と話し合い、確認し合っている。利用案内文や事業所の目につきやすい所へわかりやすく掲示し、利用者、家族、来訪者へも理解してもらう工夫をしている。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員としての生活支援をホームの重点目標としており、地域の人達との交流の機会をできるだけ多くもてるよう工夫している。散歩、買い物は日常的に支援しており、併設の複合施設との合同イベント等で地域住民との交流を図っている。また、地域の運動会や祭り、保育所や小学校の行事などへも積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は、常に話し合いの中で意見を出し合い自己評価を行っている。外部評価についても、その意義をよく理解しており、全員で改善に向けた取り組みがなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月に1回開催され、利用者、家族、地域住民、町担当者、地域包括支援センターからも参加して、ホームの状況報告や意見交換がされている。討議内容は、全職員にも書面で報告され、確認されている。	○	運営推進会議は、2ヶ月に1回、開催されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、月に何度も町担当者を訪問し、情報収集したりホームの行事案内をしている。また、行事には社会福祉協議会などの職員も参加し、連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月利用者の状況を「ぼかぼかアルバム」として家族に送っている。職員紹介欄もあり、喜ばれている。家族の来訪回数も多く、遠方の家族とは体調など変化のある時は、電話、ファックス、メールなどで随時連絡するようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設けている。利用料の支払いをできるだけ窓口でもらうようにして、意見や要望を積極的に出してもらう機会ととらえている。意見があれば、記録し全職員で検討し、運営推進会議で報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	隣接地に複合施設が新設されたため異動があったが、利用者の不安を和らげるよう声かけの工夫や引継ぎをしっかり話し合い、利用者や新しい職員が早く信頼関係を築けるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、研修案内を職員に回覧し、職員が希望する研修が受けられるよう勧めている。事業所がコンサルティング契約をしているメディカルセンターからの情報により、適切な研修内容を得て、受講している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域の同業者と行き来したり、電話で交流する機会があり、事業者同士の連携や交流の必要性を認識し実践している。また、管理者だけでなく現場の職員も同業者と交流できるような環境作りへの取り組みができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ、安心と信頼に向けた関係作りと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と事前に話し合いをもったうえで、体験入居や同事業所内のデイサービスを利用し、事前に馴染みの関係を築くなど利用者が安心して生活に馴染めるよう配慮している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を常に人生の先輩として尊敬し、ことわざや料理の味つけなど教えてもらう場面作りをし、共に過ごし支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話や表情により、本人の希望や思いを把握するよう日々心掛けている。意思疎通が困難な方は、家族や関係者からの情報を基に、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の生活歴や思い、趣味などを本人、家族、関係者から情報収集して、利用者の意向に添った計画書となるよう検討を重ね工夫している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しのほか、退院後や状況が大きく変化した場合は、利用者、家族、主治医などと充分話し合い、随時現状に合った計画書を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとっており、協力医療機関との密接な連携による受診、機能訓練等が行われている。また、かかりつけ医への通院介助なども柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の医師がほとんど毎日来訪し、利用者の健康管理や緊急時の対応等適切な医療が受けられるよう支援されており、家族の安心につながっている。また、他のかかりつけ医との連携も取れている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時には、家族に説明し、またかかりつけ医とも相談しながら本人や家族の意向に添うよう支援していく取り組みがなされている。しかし、事業所としての基本方針が明文化されていない。	○	終末期のあり方について、家族にも説明し医師とも相談しながら対応しているが、明文化に向けた取り組みが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者、職員がお互いに注意しあって、利用者一人ひとりのプライバシーの保護に配慮した声かけや対応がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、できるだけ利用者に寄り添い、会話や表情などで、その日のペースや希望に添った支援ができるよう配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食卓の準備、盛り付け、後片付けなどできることを手伝ってもらっている。また、職員と一緒に同じテーブルを囲み、楽しみながら食事をしている。外食やお鮎屋さんに来てもらうこともある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者が希望すれば、いつでも入浴できるよう支援している。入浴嫌いの利用者に対しても、声かけ、誘導で入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物の片付け、食事の準備、掃除など、利用者ができる事を無理強いせず、楽しみながら参加してもらうよう支援している。また、利用者の高齢化により、調理を手伝ってもらうことが困難な場合があるが、簡単なおやつ作りを職員と共に楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの方針としてできるだけ外出の機会を多く持てるよう支援している。買い物、散歩は日常的に行っており、イチゴ狩りや花見など大きな行事には、全職員が出勤して支援している。また、町内の運動会、敬老会には毎年参加している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員が鍵をかけないケアを共通認識しており、日中、玄関は開放している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	敷地内に避難所を設け、地震時には地域住民にも開放して利用してもらうことにしている。火災に対する避難訓練は、年2回行っている。しかし、地理的に近年中に大きな地震が起こることが予想されているが、その対策が行われていない。	○	地域的にも、地震災害を無視できないので、地震や津波に対する避難訓練の実施等に向けた取り組みも期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	協力医療機関の医師がほとんど毎日利用者と共に昼食をとり、栄養バランスやメニューの助言・指導を行っている。また医師の指導のもと、腎臓食を提供したり、アレルギーの方には代替食を提供している。食事量、水分量の摂取状況は、毎食、おやつ時にチェックし記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下、居間、食堂には邪魔にならない程度で季節の花や観葉植物が配置されている。居間には、こたつのある畳の間とソファのコーナーがあり、利用者が思い思いにゆったり過ごせるような工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者の好みや必要性に応じてベッドあるいは畳の間になっている。カレンダーや家族の写真を飾り、家庭的な雰囲気作りに配慮されている。入り口のドアは、はっきりした色で区別され、好みのぬいぐるみを掛けるなど間違わない工夫がされている。		